

1981 CATERHAM SUPER SEVEN GT SPRINT

"旧車に優しいクーラント"を入れてみた

text & photo : Jun NAGAO (長尾 循)



取材協力:エバンス・ジャパン (phone:03-5777-1616) 猪熊自動車 (phone:0466-41-0833)



今回の作業でお世話になったのは、エバンスジャパンの指定取扱店のひとつである、神奈川県藤沢市の猪熊自動車さん。代表の猪熊さん自ら、愛車のNAロードスターにこのエバンスウォーターレスクーラントを使っており、その安定した性能には満足している由。



昔、自宅の近所に駐車場を借りていた頃、そこの大家さんによく「夏にオープンカーで走るのは、さぞかし気持ち良いじゃろう」などと声をかけられましたが、ちょっと古いクルマにお乗りの方なら、夏の暑さとヒストリックカーの相性の悪さはよくご存知でしょう。特に近年の夏の暑さと来たらちょっと異常。そんな中、クーラーも持たない古いクルマで渋滞にでも巻き込まれた日には、人とクルマ、どちらが先にオーバーヒートするか、みたいな話です。ジリジリ上昇を続ける水温計の針を睨みながら、なんとか前が空くのを待つ時のストレスと言ったら……。

そんなわけで、古いクルマ（と若くない自分）に過度な負荷はかけたくないと思うのが、長年ヒストリックカーと付き合ってきたオジサンの気持ち。

そんなオジサンが、最近ちょっと気になっていたのが、『エバンスウォーターレ

スクーラント』。通常、水冷エンジンのクルマに使われているクーラントは水で薄める希釈型。つまりは水分が含まれているのですが、こちらの製品はその名の通り"水分を全く含まないクーラント"、とのこと。当初はあまり深く考えず、単に「オーバーヒートしないクーラント?」くらいに思っていたのですが、色々見聞きしていると、そんな単純な話では無いらしい。

このエバンスウォーターレスクーラント、まず沸点が190℃と通常のクーラントに対して非常に高く、つまり乗っているクルマの水温計の針が同じ100℃を指していたとしても、全然余裕。さらに水分を含まないのでラジエターの内部気圧が上がりにくく、エンジンの冷却システムに過度な圧力が加わらない、ということで、これはヒストリックカーにとって非常にうれしいポイント。さらに、通常のクーラントではどうしても避けられない、冷却系内部



ファクトリーに入庫後、水温が下がって来た頃合いを見計らって、今まで入っていた通常のクーラントを抜く。ウチのセブンはラジエーターにドレンコックが付いていないので、ローホースを外して排水。



クーラントの排水が終わったら、さらにヒーター・ホースなども取り外し、水路に圧縮空気を吹き込んで、ホースやエンジン内部に残っている少量のクーラントも、可能な限り排出する。



その後、いったん冷却系統のホース類を全て元に戻し、プレップフルイドと呼ばれる専用の洗浄液を入れる。ご覧の通り、洗浄液は無色透明。



エンジンの暖気を行い、しばしの間洗浄液を循環。ラジエーターキャップが付いていないのは締め忘れただけではなく、電動ファンが作動する温度域になっても、水蒸気を吹き上げる事が無いという「証拠写真」。



回っているエンジンの洗浄液の温度を計っている。の図。写真では見えづらいが、温度計の目盛りは91℃を指している。当然洗浄液も「無水」なので、全く沸騰する兆しはない。



洗浄後、再びローホースを外して洗浄液を排出。もともと無色透明だった洗浄液は、僅かに緑がかった。これは僅かに水路に残っていた、クーラントの残りりと混ざった色。その後再び洗浄液を圧縮空気で吹き飛ばす。



念入りに冷却系統の水分を取り除いた後、いよいよエバンスのウォーターレスクーラントを入れる。さらに作業の最後には、クーラントの中に水分がどの程度混入しているか濃度を計るため、専用の屈折計測器で計測するという念の入れよう。専門の取扱店ならではのきめ細かな作業だ。

幸か不幸か、作業当日の気温は35℃近いという猛暑。しかし帰り道の渋滞で水温系の針が100℃近くになっても、くたびれたホース類やラジエーターコアに、過度な圧がかかっていないと思えるだけで、圧倒的に気持ちが良い。



の腐食（錆び発生）、電解作用によるダメージとも無縁だそうです。

今までクーラントの交換は大抵自分でやって来たので、このエバンスウォーターレスクーラントも、製品を購入して自分で出来るのかと思いきや、それはよろしくないそうです。やはり所定の性能を発揮させるためには、指定された専門の取扱店での作業が吉、と。その作業の流れは上の写真をご覧ください。

今回はクーラントの交換だけでした

が、後から思えばラジエーターホースを始めとする消耗パーツ類も、あわせて交換すれば良かったと思いましたが、それは今後の宿題です。少なくとも冷却系統に対する負荷は、今までよりも下がったわけですし。

ちなみにエバンスウォーターレスクーラントの定価は1万8600円（+税）、プレップフルイドと呼ばれる専用の洗浄液が1本1万4500円（+税）。どちらも1本3.77リッター（=1ガロン）入りで、う

ちのセブンの場合は1本で事足りましたが、たぶん個体差があるので余ったり不足したりする場合もあるかも、です。ここに時間あたりの作業工賃が加わりまして、今回のコストはだいたい5万円強。この記事が掲載される頃には夏も終わっている頃でしょうが実はこのクーラント、凍結温度も零下40℃です。理論的にはもう死ぬまでクーラントを足したり交換したりする必要がなくなったというわけです。

DATA

1981 CATERHAM SUPER SEVEN GT SPRINT

- 導入年月日: 1986年3月
- 累計走行距離: だいたい6万キロ
- 平均燃費: だいたい9km/リッターくらい
- 前回のレポート: 464号

OWNER ● 長尾 循 (ナガウオ)

本誌編集長。その前は長らく姉妹誌モデル・カーズ編集長。さらにそのずっと前は、カー・マガジンのエディトリアル・デザイン担当。プラモデルとミニカー好き。弱いものいじめが嫌いなのは、自分自身があらゆる競争に弱いから。